

富山高等専門学校 商船学科 教員公募

1. 募集人員 助教 1名
 2. 所 属 商船学科
 3. 専門分野 商船学に関する分野
 4. 担当授業科目等 商船学全般, 実験実習, 卒業研究, 専攻科特別研究等
 5. 応募資格 (1) 博士又は PhD の学位を有する方が望ましい
(2) 三級海技士以上の海技免状を有する方が望ましい
(3) 実践的な高専(商船系)の教育・研究に強い意欲を持ち, 学生指導, 寮生指導, クラブ指導などにも理解と熱意を持って取り組める方
(4) 共同研究や公開講座など地域貢献に意欲のある方
※別添「本校商船学科の教員が携わる校務の概略について」を参照
 6. 採用予定日 令和2年4月1日以降のできるだけ早い時期
 7. 提出書類 (1) 教員選考個人調書(本校書式)
写真貼付。電話番号及び電子メールアドレスを必ず記入すること。
(2) 教育業績調書(本校書式)
(3) 研究業績調書(本校書式)
(4) 自己推薦書(本校書式)(各項目に対して抱負を記述する)
(5) 本人について照会可能な方2名の所属・氏名・連絡先
(6) 学位又は海技免状の写
 8. 応募締切日 令和元年10月11日(金)17:00必着
 9. 選考方法 一次選考 書類審査
二次選考 面接及び模擬授業による審査(一次選考合格者に対して実施日時を連絡する。二次選考に係る旅費, 宿泊費等は個人負担とする。)
 10. 応募書類提出先 〒939-8630 富山県富山市本郷町13番地
富山高等専門学校総務課人事労務担当
(Tel 076-493-5491)
- 注 封筒の表に「商船学科教員応募書類在中」と朱書きの上, 「簡易書留」で郵送すること。
応募書類は原則として返却しない。応募者の個人情報は富山高等専門学校の教員を採用するという目的のために利用するものであり, 富山高等専門学校以外の第三者には提供又は公表はしない。提出書類の各様式は, 本校ホームページ
[\(https://www.nc-toyama.ac.jp/recruit/faculty/\)](https://www.nc-toyama.ac.jp/recruit/faculty/)
からダウンロードし使用すること(Microsoft Excel, PDF)。
11. 問い合わせ先 富山高等専門学校副校長 水谷 淳之介
E-mail: jinji@nc-toyama.ac.jp
 12. その他 本校は男女共同参画を推進しており、業績(教育業績、研究業績、社会貢献、人物を含む)の評価において同等と認められる場合には、女性を優先的に採用します。また本校は国際的に活躍できる技術者の育成に努めておりますので、外国籍の方の応募を歓迎いたします。

富山高専商船学科の教員が携わる校務の概略について

高専教育は15歳からの5年間（商船学科は5年半）の一貫教育及び続く専攻科2年間のより専門的な教育で、高い実践力を備えた技術者、ビジネスパーソンの育成を旨としています。教育内容や学生の年齢層の広さから、教員は独創的・創造的な教育・研究活動の展開が可能です。高専教育に情熱を持って取り組んでいただくために、商船学科教員の職務・職責の内容の主なものを記します。

(1) 学級担任

学級担任は、一学級40人程度の学生への勉学や生活指導など、学生生活全般にわたる指導を行います。担任は高等学校と同様に毎日の教室清掃指導、学園祭、球技大会、カッターレース大会など各種行事の指導、そして学生への個人面接や保護者との懇談など重要な職務です。加えて学外実習、見学旅行の引率指導、さらに就職・進学の見学指導（キャリア教育・インターンシップを含む）について強い意欲を持って取り組んでいただきます。

(2) 授業

商船学科教員の担当授業時数は、本科における講義が週約6～8時間、実験実習、各種ゼミ、卒業研究などが週約12～20時間です。そして専攻科の講義や実験実習がこれに加わります。定期試験は年4回あり、成績不振学生に対する個別指導を行うことがあります。実験実習科目では、実験指導とレポート作成指導が重要です。練習船実習では実践的指導を行います。そして教員相互に行う授業評価や年度末に行う学生の授業評価などを通して、教育方法の継続的改善に取り組むことが求められています。

(3) 卒業研究および特別研究

卒業研究は、教員の密接な指導の中で成り立つ高専教育の最重要科目の一つであり、担当教員の強い指導力が求められます。教員一人あたり2～4名の学生を指導します。加えて専攻科学生1～2名を担当し、特別研究の指導を行い学位授与機構への申請手続きも行います。なお、特別研究を受け持てるかどうかには教員個人の審査があります。

(4) 研究

高専の教員は、学級運営全般及び教育面や学校運営への参画、そして研究面での業績も求められます。研究に対する意欲的な姿勢と成果が学校全体の教育研究面の活性化を促し、地域社会への貢献にもつながるものです。全教員に科研費申請をお願いしています。

(5) 社会貢献

共同研究、受託研究、公開講座、出前講座など地域連携活動を展開しています。地域社会から様々な形で本校に対する要望が寄せられており、積極的に地域社会に対して貢献する姿勢が要求されます。

(6) 各種委員会・会議

教務委員会、学生委員会、寮務委員会をはじめ各種委員会があり、それに所属することがあります。教務主事、学生主事、寮務主事のもとにそれぞれの委員会メンバーが中心となって教育・生活指導を行います。加えて定期的に教員会議や学科会議等が行われ、学内の情報交換や学校運営に対する意見の集約を図っています。

(7) クラブ顧問

クラブ顧問としての日常的なクラブ指導があります。運動系は、高専体育大会（地区大会・全国大会）の運営や高体連などの各種大会および練習試合の引率、合宿指導などがあり、文科系は各種発表会への参加及び引率があります。

(8) 学寮の宿日直

原則として全教員に学寮の宿直又は日直（日直は土・日・祝日のみ）が月一度程度割り当てられます。200名近い男女寮生を指導するこの職務は、本校教員の重要な教育業務の一つです。